

総務文教常任委員会

熊谷市行政組織条例の一部を改正する条例について

問 今回の改正による該当部署の職員を増減について伺いたい。

答 職員数の増減はない。
(所管課・行政改革推進室)

熊谷市公民館条例の一部を改正する条例について

問 鎌倉町公民館利用者の今後の活動への影響を伺いたい。

答 鎌倉町公民館の対象区域は、本町公民館の活動区域としたい。本町公民館は建物がないため、中央公民館を利用いただいていることから、鎌倉町の皆様についても、中央公民館を利用いただくことを想定している。
(所管課・中央公民館)

平成30年度熊谷市一般会計予算(総務費・教育費)について

問 ラグビーワールドカップ推進事業における、テストイベントはどのようなものを想定しているのか伺いたい。



平成29年10月21日に開催されたラグビーイベント(ギネス世界記録に認定された「最大のラグビー教室」)

答 交通輸送については、1年前イベントで行われる事業を、またファンゾーンについては平成30年11月3日に開催される日本代表とニュージーランド代表のテストマッチに合わせ、パブリックビューイングや飲食の提供をするなどして、それぞれテストイベントとして取り組む。
(所管課・ラグビーワールドカップ2019推進室)

問 英語教育推進事業について、委託料が増加している理由を伺いたい。

答 GTECという英語の4技能スコア型テストを全中学校で実施する予定であり、このテスト実施の委託料が増加の要因である。
(所管課・学校教育課)

問 総合交通体系整備促進事業における市内循環バスの利便性の向上について、具体的な内容を伺いたい。

答 新たにワゴン車を導入し、妻沼地区の循環および籠原駅との往復ルートを運行するほか、既存路線の見直しと増便を図る予定である。
(所管課・企画課)

請願第12号「海外で戦争することを許さず、日本国憲法を生かすことを求める意見書の提出を求める請願」および請願第13号「日本国憲法第9条の改定を行わないよう国に意見書の提出を求める請願」

【主な意見】

賛成意見 現政権は憲法に自衛隊を明記する改憲を行うと表明したが、現憲法を発展させることが、平和につなが

るものであり、空襲被害を受けた本市から憲法第9条を守れの意見書上げの意味は大きく、採択に賛成である。

賛成意見 日本が海外で戦争を起こさずにこれたのは、憲法第9条の役割が非常に大きい。いかなる理由があろうとも海外で戦争ができる憲法に改定すべきではない。第9条の改定ではなく領域警備法の制定と憲法の枠内での周辺事態法の強化を目指すという立場から、採択に賛成である。

反対意見 世界では軍隊を持たない国は稀である。日本でも過去に、外国の船舶乗組員と銃撃戦が発生していることから、現行の憲法では自国を守ることは困難と言わざるを得ない。領土を守るため、自衛隊にしっかり守らせる憲法にするべきであり、採択に反対である。

継続審査意見 国でも明確なものが形として見えない中で、結論を出す段階ではない。国会の動向や国際情勢を注視し、より慎重な議論を展開する必要があると考え、継続審査としたい。

- 委員長 権田 清志
- 副委員長 塚菜穂子
- 委員 岡信吾、山美智子、大松本一、小林幸

環境産業常任委員会

委員長 正泰
副委員長 小島 裕
委員 鈴木 昇
委員 原 秋夫
委員 加賀 千正
委員 新井 富
委員 松本 淳
委員 守屋 淳

平成30年度熊谷市一般会計予算（衛生費・商工費）について

問 「暑さ対策」籠原駅前広場冷却ミスト事業に関して、熊谷駅に既に設置されているミスト装置の利用者満足度等の状況を伺いたい。

答 平成24年度に実施した熊谷駅の利用者、通行者等のアンケートでは、71.2%の方からミストがあつたほうがいいという回答があり、また、79.4%の方から涼しい、少し涼しいといった良い評価をいただいている。（所管課・環境政策課）

問 熊谷駅南口広場公衆便所改修事業について、その詳細を伺いたい。

答 入り口を男性用、女性用、多機能トイレ用の3つに分け、出入り口の段差の解消、女性用トイレにパウダールームを設置するほか、多機能トイレへオストメイトやベビースートの設置等を予定している。（所管課・環境推進課）

問 個店連携応援事業について、補助金の適用基準の詳細を伺いたい。

答 当該補助金は、3店舗以上の個店が

連携してイベント等を開催した際の補助で、補助率が2分の1、上限が50万円である。補助対象となる経費は、需用費、報償費、使用料および賃借料、委託費、その他共同販売に必要な経費等である。なお、平成29年度までは、商業振興事業の一部であつたが、非常に好評だったこともあり、平成30年度からは、事業として独立させて予算計上した。（所管課・商工業振興課）



平成29年11月1日に熊谷駅で開催したイベント「熊旬」の様子

平成30年度熊谷市駐車場事業特別会計予算について

問 管理費運営委託料の内容について伺いたい。

答 通常業務として、料金の収納、計算や回数券の発行等のほか、場内の各種点検業務、敷地内の植え込み等の管理などを従業員2人体制、2交代で行っている。（所管課・商工業振興課）

市民福祉常任委員会

委員長 広己
副委員長 石川 琢也
委員 山本 衛美
委員 影山 兵勝
委員 岡田 美夫
委員 松本 千生
委員 福井 三弥
委員 桜井 高
委員 黒澤 高
委員 関野 高

熊谷市ひとり親家庭等医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について

問 控除対象配偶者を同一生計配偶者に改めることによる違いを伺いたい。

答 控除対象配偶者を、従前の控除対象配偶者と同じ定義となる同一生計配偶者に改めるため、改正前後での取り扱いには違いはない。（所管課・こども課）

平成30年度熊谷市一般会計予算（民生費・衛生費）について

問 生活保護事業の扶助費が増額であるが、平成30年度の保護世帯および人数の見込みと増額の理由を伺いたい。

答 30年度は微増となる1878世帯、2405人を見込んでいる。また、扶助費の増額は、高齢者世帯の増加に伴い、医療扶助費および介護扶助費の増加が見込まれるためである。（所管課・生活福祉課）

問 あんしんコール事業について従来緊急時通報システムの対応とどのように変わったのか伺いたい。

答 コールセンターに配置された看護

師等専門職の職員が、利用者の健康相談に応じることも可能となっている。また、緊急時には、直ちに消防本部へ通報するとともに、委託先のガードマンも直接駆けつけることになっている。（所管課・長寿いきがい課）

問 小児救急医療支援事業の内容について伺いたい。

答 休日および年末年始の昼夜ならびに平日夜間の小児の第二次救急診療を確保するため、熊谷・深谷・児玉地区小児救急医療支援事業に参加する3つの病院に対し、その運営費の一部を補助する。（所管課・健康づくり課）

平成30年度熊谷市後期高齢者医療特別会計予算について

問 後期高齢者医療の保険料改定について伺いたい。

答 改定は2年ごとに行われ、埼玉県の広域連合では均等割額を4万2070円から4万1700円に引き下げ、所得割率を8.34%から7.86%に引き下げた。（所管課・保険年金課）

都市建設常任委員会

委員 長 賢二 浩
副委員 長 義 夫
委員 千葉 久 保 照
大森 三 浦 新一
野 澤 和 久

市道路線の廃止について

問 市道廃止に伴う売払面積と金額を伺いたい。

答 売払面積2385・22平方メートル、売払総額1077万6559円である。
(所管課・管理課)

問 工事請負契約の締結について(熊谷駅正面口駅前広場改修工事(その2))

問 工事中のバスの乗降場所を伺いたい。

答 東側のバス降車場所をみずほ銀行西の県道側に移動し、その空いたスペースにそれぞれ工事をする箇所のバス乗車場所を随時移動する予定である。
(所管課・道路課)

問 平成30年度熊谷市一般会計予算(土木費)について

問 通学路交通安全対策事業の対象校を伺いたい。
答 主な対象校は6校で、太田

小学校、中条小学校、新堀小学校、石原小学校、成田小学校、吉岡小学校である。
(所管課・維持課)



通学路交通安全対策事業

問 平成30年度熊谷市下水道特別会計予算について

問 管渠埋設の計画地区を伺いたい。

答 広瀬地区、拾六間地区、円光一丁目地区、大原三丁目地区、上之地区、平戸地区である。
(所管課・下水道課)

問 平成30年度熊谷市水道事業会計予算について

問 漏水調査の対象範囲を伺いたい。
答 市内全域を予定している。
(所管課・工務課)

農業振興特別委員会 行政視察報告

農業振興特別委員会では、1月22日に、くまがや農業協同組合において行政視察を行いました。

当日は、くまがや農業協同組合本店において、吉田代表理事組合長から、新規就農支援、熊谷産小麦の生産拡大への対応等、農業振興に係る現状と諸課題について説明を受け、同組合との間で、関連分野について幅広い意見交換を行ったほか、JAくまがやふれあいセンター箱田店内の直売所を見学しました。



熊谷産小麦を使用したうどん

スポーツ・観光特別委員会 行政視察報告

スポーツ・観光特別委員会では、2月26日・27日の2日間にわたり行政視察を行いました。

初日には、茨城県水戸市を本拠地とするプロバスケットボールチーム、茨城ロボッツが手がける「まちなか・スポーツ・にぎわい広場(MISSPO)」について視察を行いました。水戸市では商店街の中心にあつたデパートが撤退してから約20年間、空き地になっており、その場所にアリーナやスタジオ、ショップ、カフェなどを茨城ロボッツが中心となり水戸出身の実業家や水戸市と連携し、整備したとのことでした。アリーナは、選手がバスケットの練習を行うだけでなく、雨天時に保育園が運動会を開催するなど、地域の方からも身近な施設としてにぎわっているとのことでした。水戸出身の企業経営者が、以前に比べ、にぎわいがない地元をどうにか盛り上げたいとの思いで、「水戸ど真ん中再生プロジェクト」を立ち上げたことが、MISSPOの整備のきっかけとのことでした。プロジェクトには、地元の方や出身者だけでなく、さまざまな企業も参画し、地方創生のモデルとなるよう活動しているとの説明を受けました。



アリーナの壁面、屋根が白い生地のため、プロジェクトマップも映えるとのこと。

翌27日には、宮城県仙台市にて「一般社団法人宮城インバウンドDMOの取り組み」について視察を行いました。同法人は、宮城県南部の4市9町のパイ役となり、南宮城という地域を提案し、地域のブランド化に尽力しているとのことでした。当初は、地域のインバウンドへの意識が薄く、行政との連携、合意形成等で苦労したとのことですが、今では、法人が所在している丸森町では、毎日のように外国人観光客が訪れているとの説明を受けました。

両日とも情報交換や質疑を行い、先進事例の研究を行いました。